

教育大綱 基本方針一

未来を拓く子どもたちの豊かな学びの実現

亀山市教育関係職員 研修基本方針

「一人ひとりの児童・生徒が個性を生きながら

なかまとともに主体的に学ぶために」

- (1) すべての子どもの学ぶ意欲を高め、社会で生きてはたらく「確かな学力」を育てる教育活動をすすめる。
- (2) 教師の授業力向上を追求するとともに、系統的な指導をすすめる。
- (3) 人権を尊重し、なかまとともに、豊かな心と身体をはぐくみ、自己肯定・自己有用感を高める教育活動をすすめる。
- (4) 地域の人材や活動を活用し、地域とともに特色ある教育活動をすすめる。

学校教育目標

生き生き 笑顔で つながって

～自ら学び つながり

心豊かにたくましく生きる 井田川っ子の育成～

研究主題

つなげる，つながる，熱くなる

～授業を通じたなかまづくり～

研究主題設定の理由

(1) 子どもたちの実態 (令和元年度学力学習状況調査・学校アンケート等の結果をうけて)

- ・基礎的な計算力があり、学力調査の国語・算数の結果は、全体の正答率が三重県平均並みである。
- ・自分の考えを表現する力が弱く、字数制限や指定の言葉を使用して書くことが苦手であったが、研修の成果により書く力が向上してきている。
- ・なかまの発言に対して反応しながら聴くことができるようになってきた。しかし、自分の思いや、なかまの意見に対する考えを伝える力は依然として課題が残る。
- ・主語述語の読み取り、各学年で習得すべき漢字の習得が不十分である。
- ・全体的に学校図書館の利用回数、貸出冊数は多い。しかし、高学年に行くほど減少傾向にある。
- ・理科では、学習した内容を生活の中でいかすことができず、学力調査の正答率も低い。
- ・困っている子がいると声をかけたりできる子も多いが、なかまがもつ多様性を尊重できずに固定的画一的な見方をしたり、差別的な扱いに気がつかなかったりする。
- ・自己肯定感や自己有用感が低い児童が多い。

(2) これまでの取り組み、成果と課題

昨年度 研究主題

「やってみたいな!」「伝えたいな!!」～子どもたちが考え、進んでつながる授業づくり～

研究領域

国語科・道徳科・生活単元学習・生活科・総合的な学習の時間

成果

- ・つきたい力を明確にして単元を構想し、教師も子どもも見通しをもって授業を行うことができた。また、子どもたちの意欲も向上し、教師は子どものつまづきを予想し、支援の手立てを考えることもできた
- ・国語科・道徳科の授業づくりのための土台ができてきた。
- ・子どもをつなげるのための「問い返し」や「教師の介入の仕方」の重要さに気づくことができた。

課題

・子どもたちが「伝えたいな!」「進んでつながる」という気持ちをもつことができるよう、教師による意見の整理の仕方や介入の仕方を工夫していくことが必要である。

(3) 今年度のめざす子ども姿と主題について

今年度 研究主題

「つなげる・つながる・熱くなる」～授業を通したなかまづくり～

上記の実態から、今年度は、「つなげる、つながる、熱くなる」～授業を通したなかまづくり～を研究主題とする。「つなげる、つながる、熱くなる」では、子どもたちが主体的に学習し、教師・子ども・地域がつながり合って『学び合う姿』を目指したい。さらに、学校生活の大半を占める授業を通したなかまづくりを意識し、推進していくことにより、『認め合い、励まし合い、思いやりのある子ども』の育成を目指していく。

研修の領域

全教科・全領域

授業公開は国語科、道徳科、生活単元学習を中心とする。国語科では、「聴く・語る」等の表現する力、相手や目的を意識して「伝える力」を育てる。道徳科では、物事を多面的・多角的にとらえる力、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。生活単元学習は、なかまとのかわりや地域とのつながりを生活に即して学んでいく。それらの力を、各教科を横断的につなげる視点から全教科・全領域でいかしていくことをねらう。

研究構想図

学校教育目標

キャッチフレーズ

進んでチャレンジ 笑顔いっぱい 井田川っ子

生き生き 笑顔で つながって
～自ら学び つながり

心豊かにたくましく生きる 井田川っ子の育成～

<めざす子どもの姿>

- (1) 学び合い、想いを伝え合う子ども
- (2) 認め合い、励まし合い、思いやりのある子ども

研究主題

つなげる、つながる、熱くなる
～授業を通したなかまづくり～

つなげる

- 十分な教材研究のもと、ねらいに迫るための発問の工夫、問い返しの工夫をする。
- 子どもたちの意見や考えをつかむノート指導や机間指導の工夫をする。
- 単元を通してのゴールを設定し、そのゴールにたどり着くためにどんな力が必要か、その力をつけるためにはどんな流れや手立てが必要か、各教科を横断的につなげるという視点から既習内容と他教科とのつながりを考えて単元を構想する。

つながる

- 子どもたち一人ひとりの考えやつぶやきを大切に、教師と子どもがつながる。
- 互いの考えを認め合ったり、練り合わせたりする過程で、子ども同士がつながるために目的や話し合いの内容を明確にしてペア・グループ活動を行うことや、教師の介入の仕方を工夫する。
- 地域の取り組みや地域の人材に学び、学校・子ども・地域がつながる。

熱くなる

- 子どもたちが意欲をもち、熱中して取り組むことができるように導入や教材提示の方法を工夫する。
- 子どもたちが学習の成果を実感できるような言語活動や発表の場の設定、体験的活動の充実をはかる。
- 子どもたちの意欲や向上心を高めることができるように、ふりかえりや評価の仕方を工夫する。
- 子どもたちへの評価を通して、指導の改善や楽手意欲の向上を図り、より魅力的な授業の実践に努める。

授業づくり
学習への土台作り
(学習部)

自治的活動
(生活部)

なかまづくり
(人権教育部)

研究主題に迫るための手立て

(1) 授業づくり (学習部)

①子どもたちをつなげる、子どもたちがつながる工夫

- ・子どもの実態や考えをつかむ机間指導
- ・ねらいや方法を明確にした場の設定と介入の工夫

②子どもたちの意欲、向上心を高めることができる評価の仕方の工夫

- ・子どもたちの日々の活動や発言、ノートやワークシートなどの学習過程を重視した評価
- ・子どもたちの意欲・向上心を高めるための数値と言葉による評価
- ・指導と評価の一体

③つきたい力を明確にし、力のつながりを考えた単元構想

- ・子どもたちに「つきたい力」を明確にした単元構想
- ・単元の見通しをもたせ、子どもたちとともに立てる学習計画

(2) 学習への土台作り (学習部)

①基礎学力の向上

- ・「モニスタ」の充実 ・個別の支援方法の確立（保護者との情報交換、井田っ子スマイルとの連携）
- ・「めあて」と「ふりかえり」が対応した授業スタイルの確立 ・評価方法の検討と検証
- ・家庭学習の定着（学習の手引きの配布） ・「ちりつもノート」の活用と掲示 ・ICT 機器の活用
- ・各種テストの結果分析と指導への反映 ・「聴く、語る」基本的技能の習得
- ・各種プリント教材（学-Viva, 東書, わかる・できる など）の活用

②学習規律の徹底

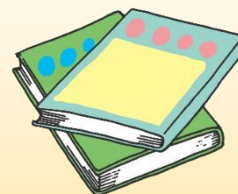
- ・学習規律表の定期的な見直しと統一した指導

③学習環境の充実

- ・教室掲示、「聴く・語る」「声のものさし」「ことばの宝箱」 ・校内掲示の充実「ちりつもノート展」
- ・子どもたちの発言をつなぐ「ネームマグネット」の活用

④子どもたちの意見や考えをつなぐ

- ・ノート指導、机間指導の工夫



(3) 仲間づくり (人権教育部)

①学級の人権課題をとらえ、子どもたちの実態を把握

- ・Q U調査の活用（年2回）、人権アンケート、教育相談、家庭訪問など

②子ども一人ひとりの思いをつかみ、子ども同士の思いをつなぐための手立て

- ・教育相談、マイノート（内容を学級に発信し、学級の仲間としてのつながりを深めていく）

③取り組みの検証

- ・「見つめる子」を設定したなかまづくり

④2020年度三重県人権・同和教育研究大会レポート報告を通じた学習会

⑤2021年度せいかつ実践交流会に向けての取り組み

(4) 自治的活動 (生活部)

①児童会・委員会活動の活性化

- ・子どもたちの自主性を伸ばす活動の支援する

②安心して過ごせる学校へ

- ・子どもたちとつくる学校のルールと啓発活動